



令和2年2月18日発行
宮城復興局気仙沼支所
気仙沼市笹が陣3-5
気仙沼市シルバー人材センター内

第79号



佐藤南三陸町長(左)から震災復興祈念公園の説明を受ける菅家副大臣(右)



菅原気仙沼地域開発株式会社社長(左)及び菅原気仙沼市長(右)から内湾地区の復興状況について説明を受ける菅家副大臣(中)

12/23月 菅家復興副大臣、青山復興大臣政務官が気仙沼市と南三陸町を訪問 水 1/8

12月23日に菅家復興副大臣が、1月8日には青山復興大臣政務官が気仙沼市、南三陸町を訪問しました。気仙沼市では、鹿折地区、内湾地区の復興状況や東日本大震災遺構・伝承館の視察を行い、南三陸町ではさんさん商店街や12月17日に一部開園された震災復興祈念公園を視察する等、両市町の復興の総仕上げに向けた現在の進展状況を確認しました。



気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館を視察する青山復興大臣政務官(右)



南三陸さんさん商店街にて、活気づく地域の商店を視察する青山大臣政務官

1/19日 インドネシアと気仙沼市の交流 2/5水 ～復興五輪で深める絆～



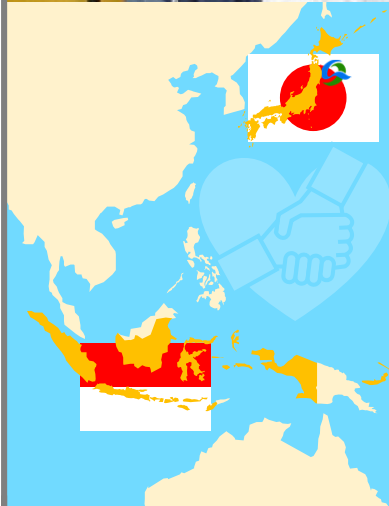
スクリーンに映し出された
インドネシアのトモダチに
呼びかける児童



インターネット回線を通じて
ランドセルを見せる児童



一緒にインドネシア料理を
つくる技能実習生と市民



2020年東京オリンピック・パラリンピックが近づいてきました。気仙沼市は関係の深いインドネシアの「復興『ありがとう』ホストタウン」にもなっており、市では小中学校の給食にインドネシア料理を提供するなど様々なイベントが企画されています。

1月19日には、気仙沼市魚市場のクッキングスタジオにて『インドネシアの人と食を通じた交流会』が開催され、50人近くの技能実習生や市民が参加しました。参加者は、インドネシアの代表的な料理であるミーゴレンやサテ・アヤム、そしておにぎり等5品目を一緒に調理し、出来た料理を食べて交流を深めました。現在、市内には200人を越えるインドネシア実習生が活躍し、気仙沼の産業を支えています。

さらに、2月5日は気仙沼小学校の児童がインドネシアの小学生とインターネット回線を通じた交流により絆を深めました。将来にわたり、交流が続くことが期待されます。

復興五輪 聖火リレーコース ～街を駆ける復興の灯～



6月20日に東京オリンピック・パラリンピックの聖火が気仙沼市と南三陸町を走ります。県内の出発地である気仙沼市では市営鹿折南住宅から気仙沼市魚市場まで、南三陸町では町役場から南三陸さんさん商店街まで聖火をリレーでつなぎます。



12/17 南三陸町復興祈念公園が一部開園

12月17日、南三陸町震災復興祈念公園が一部開園し、関係者約100名の出席のもと、犠牲者名簿を安置する石碑と、復興を願うメッセージを刻んだテラスの除幕式が行われました。石碑は海拔20mの「祈りの丘」に設置されており、海に向かって手を合わせ、犠牲者に祈りを献げる場になっています。今回は、全体(6.3ha)のうち、一部(1.2ha)の開園となっており、2020年秋には全エリアの開園が予定されています。



『いま、碧き海に祈る 愛するあなた 安らかなれと』

進む震災復興【三陸道 気仙沼中央IC～気仙沼港IC間が2月24日開通】 ～ 地域の基幹産業振興に大きな期待 ～

三陸沿岸道路は、仙台市から八戸市までを結ぶ延長359kmの自動車専用道路で「復興道路」として位置づけられ、東日本大震災からの復興に向けたリーディングプロジェクトです。県内では、全体126kmの内約9割の115kmが供用し、残り11kmが事業中で2020年度の開通予定として工事が進められています。「気仙沼中央IC～気仙沼港IC」間が開通間近となり工事もう仕上げの段階となりました。

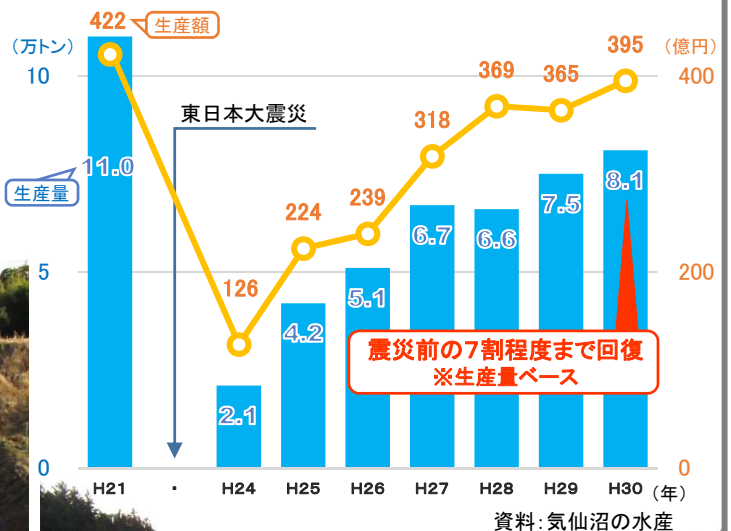
今回開通区間は1.7kmで、気仙沼港ICは仙台方面との行き来のみに利用できるハーフインター（南向き）で、東日本大震災で被災した水産業の振興を図るため気仙沼市で整備した「赤岩港水産加工団地」付近に接続されます。気仙沼市の水産業・水産加工業は東日本大震災により大きな被害を受けたものの、三陸沿岸道路の整備とともに震災直後の約3.8倍、震災前の7割程度の水準まで回復しており、今回の開通は、水産加工団地の整備と併せ地域産業の振興を後押しし、沿岸地域全体の復興に寄与するものと期待されています。

工事は終盤となり、ガードレール、標識等の付属物の設置が行われております。事業担当の仙台河川国道事務所気仙沼分室では、「開通に向け順調に進んでおり現場管理を徹底し安全で円滑な工事に取り組んでいきたい。また、地域の水産業の復興、発展となることを期待しています。」とのお話をいただきました。

また、赤岩港水産加工団地を整備した気仙沼市産業部産業再生戦略課では、「赤岩港は約20haで、造成工事は平成28年9月に完了し、14区画の内既に7区画で企業が立地稼働している。残りの区画も稼働準備中であり、今後気仙沼港ICの供用により赤岩港はもちろん周辺部の団地からも交通アクセスが向上し物流の効率化、産業の振興に大きく寄与するものと期待している。」と地域からの期待も大きく開通が待ち遠しいところで



気仙沼市の水産加工品生産状況の推移



◆支所長コラム

早いもので令和初の年明けからもう1ヶ月が過ぎました。また暦では、大寒も過ぎ最も厳しい寒さはいつ過ぎたのか・・・と今年の暖冬、降雪の少なさに驚いています。震災から8年目の昨年、気仙沼市では「震災遺構・伝承館開館、大島大橋開通、鹿折土地区画整理事業竣工」、南三陸町では「生涯学習センター開館、震災復興祈念公園一部開園」など多くのハード事業が完成し復興事業が着実に進展していることが感じられる一年でした。また、昨年末「復興・創生期間後における東日本大震災からの復興の基本方針」が閣議決定され、地震・津波被災地では復興・創生期間後5年間に於いて残された事業に全力を挙げ取り組むこととされ、復興庁の設置期間も10年延長と決められました。支所においても引き続き現場主義の徹底や、被災者に寄り添った地域目線に心がけ支援を継続し、先ずは復興・創生期間内の完遂を目指し支所一丸で今年一年取り組んでまいりたいと思います。(高信)

復興関連イベント

各地で開催される復興イベントをご紹介します。

2月24日(月) 方言教室と方言カルタ[気仙沼市]

気仙沼弁を後世に残したい、との思いで作られた「気仙沼弁ご当地カルタ」。2019年9月に完成お披露目カルタ大会が開かれましたが、今回は方言教室で学び、カルタで実践するという会が開催されます。各1時間の予定で、どちらかだけの参加も可。
(気仙沼ケーブルテレビネットワーク公開収録)

場所: 気仙沼駅前プラザ1階集会室、時間: 10:00～12:00

参加費: 無料、事前申込: 不要、持物: なし

主催: 気仙沼駅前ふれあい会

2月29日(土) 南三陸人と集う一日[南三陸町]

南三陸町戸倉地区で牡蠣の処理場見学と、震災前後の養殖の変化を学ぶツアーが開催されます。牡蠣処理場見学、宮城県漁業協同組合志津川支所長阿部富士夫さんのお話や牡蠣剥き体験等を予定しています。

集合場所: 波伝谷漁港特設会場、時間: 10:00～12:00

参加費: ¥3,500(税込み)

⇒ 南三陸町観光協会 <https://www.m-kankou.jp/>



これまでに発行した「つちおと」は、復興庁ホームページで御覧いただくことができます。

復興庁HP (<http://www.reconstruction.go.jp/>) ⇒ 宮城復興局 ⇒ 気仙沼支所だより「つちおと」

【編集後記】

◆決して寒いのを歓迎するわけではありませんが、今年の寒い冬は何か物足りないですね。とはいえ十分寒いですが。

「つちおと」発行元(お問い合わせ先)

復興庁 宮城復興局 気仙沼支所
電話: 0226-23-5301, FAX: 0226-23-5310